

子供たちの学びを支える取組に感謝

幼・保等、小、中連携

幼児教育と小学校以降の教育との円滑な接続に向け、幼・保等、小、中学校の合同研修や、「くまもとスタンダード」の活用等、取組の実施に感謝いたします。

全ての子供の瞳が生き生きと輝くため、そして幼児期の教育を小学校以降の教育に生かし、一人一人の学びと育ちをつなげるため、まずはできることからのチャレンジをお願いいたします。

いじめ・不登校・問題行動の未然防止と早期対応

全ての子供たちにとって学校が安全で安心な居場所となるよう、校内支援体制の確立やSC・SSW等を含む専門機関との連携した適切な支援、組織的な対応に感謝いたします。

学校の教育活動全体を通して、子供たちが自分自身や他者の大切さを自覚できるよう、今後とも魅力ある学校・学級づくりの推進をお願いいたします。

特別支援教育の充実

障がいの特性に関する理解と指導方法の工夫に努めていただき、感謝いたします。今年度は「特別支援学級等担当者指導力向上研修」等により、特に自立活動の指導力向上に取り組んでいただきました。

今後も子供の可能性を最大限に伸ばせるよう、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な学びの場の提供をお願いいたします。

家庭は教育の原点であり、全ての教育の出発点

現代においては、以前と比べ人同士の関係が希薄化し、保護者が身近な人から子育ての仕方を学ぶ機会が減ったり子育ての悩みや疑問など気軽に相談できる人がいなかったりと、保護者間の交流やつながり、子育てを支える環境などに変化が見られています。保護者にとっては、仕事と子育ての両立の難しさなど様々な要因を背景として、家庭の孤立化や忙しくて時間的・精神的ゆとりを持たない状況など、家庭をめぐる問題も複雑化してきています。そんな今だからこそ、家庭教育の充実に向けてみんなで考え工夫してみませんか。例えば、学校運営協議会で家庭教育をテーマとして子供たちをまじえて熟議したり、くまもと「親の学び」講座を受講した保護者代表が進行役となって「親の学び」講座を学級懇談会等で実施したりすることも考えられます。

家庭教育について、子供、保護者、学校、地域住民、行政とがつながり一体となって、「家庭は教育の原点であり、全ての教育の出発点」を意識した取組が行われることが重要です。誰もが安心して子育てができるよう、改めて家庭教育の大切さを社会全体で意識し支援していきたいと考えています。



～ 編集つれづれ ～

時々、携帯電話の画面に私の電話帳に登録していない電話番号からの着信があるが、基本的に私は出ないことが多い。でもそんな中にも、「んっ？」と何かを感じる時があり、年に数回電話を取ることがある。

約4年前、桜が咲く3月の春休みのことだったのだろうか。二人の教え子が、自転車で遠く離れた私の勤務地まで、私が受験した大学の合格の報告に来てくれた。教師という仕事に携わっているものが味わえる、何とも言えない瞬間の一つでもある。夢と希望に満ち溢れた教え子達から私が元気をもらった。

昨年は、9月下旬に「んっ？」とを感じる電話番号からの着信があった。熊本県公立学校教員採用試験の二次試験合格の電話であった。いつの日か一緒に仕事ができる教え子が増えてくることは、とても嬉しいものであり、心強くもなる。「出会い」に感謝、「教師という仕事」に感謝。